

つくばで輝く研究者

MATSUNO Mayumi 松野 真由美 さん

一般財団法人日本自動車研究所 エネルギー・環境研究部
パワートレイングループ 研究員 博士(工学)



研究所構内で

北海道旭川市出身。2000年旭川工業高等専門学校機械工学科卒業後、長岡技術科学大学機械システム工学科に編入。卒業後同大学院工学研究科に進学し、07年博士号(工学)取得。新潟大学・トロント大学(カナダ)での研究員、産総研特別研究員を経て17年から現職。



実験風景

《内燃機関 極めたい》

自動車の排気後処理システムの一種・微粒子捕集フィルタに堆積する「アッシュ(エンジンオイル添加剤由来の金属物質)」の研究に取り組む。前職から携わっていたA・I・C・E(自動車用内燃機関技術研究

自動車研究で社会貢献

「最前線の誇り」胸に

組合)研究の一環であるアッシュの実験機は、稼働中約800℃まで上昇。建屋内は夏は約50℃に達し、冬は氷点下も記録するなどタフさも要求されるが「燃費や環境に直結するなどやりがいも大きい研究です。まだまだ極めたいですね。広大な敷地内には模擬市街地も完備。より快適で環境に優しい自動車の実現を目指し、同所研究者やメーカー担当者がタッグを組

み開発に打ち込む姿も見られるという。「日本の自動車研究の最前線で働くことに誇りを感じます」

《何にでも全力投球》

北海道でのびのびと育った。遊び相手は近所の男子の子や父、弟などほぼ男子。木登りや野球(三・四塁に夢中になった。特に父とは「ランニング仲間」で、興が乗ると10キロを走破したことも。小6時に800メートルの旭川市記録(当時)を樹立するなど「基礎体力の大半は小学校卒業までに身に

付けた(笑)」。中学では女子ソフトボール部に所属。高専で全国大会に出場したバドミントンを大学・院でも継続するなど、学生時代はスポーツに熱中したが、勉強や実習への手振きは切なかった。「興味を持ったものには全力で取り組む性分なんです」。研究者となってもスタイルは不変。昨年は自動車技術会主催の学会に登壇し、アッシュに関する講話を披露。優

秀講演者賞を受賞した。「基礎研究は地味ですが大切な分野。高く評価してくいただき、大変うれしく思いました」

つくばの暮らし

夫、長女(7)、長男(4)の4人暮らし。休日子どもたちと一緒に過ごす時間を最優先。研究学園駅前公園や水辺公園など、広々とした芝生がある公園が松野家のお気に入り。「これだけは外せない」というバドミントンセットほかバット&ボール、フリスビー、ジャボーン玉などを家族全員の手で自転車に目いっぱい詰め込んだら、いざ出陣。「私や夫が子どもの面倒を見るというより、みんなで思いっきり楽しみます。何物にも代えがたい、かけがえない時間です」



長女(左)と挑戦したロープクライミング体験